

第2回水田活用産地づくり推進プロジェクト会議 現地検討会

日時:令和5年10月20日(金)

9:30~11:00

次 第

1 「水田活用の直接支払交付金見直しに対応した小麦栽培」

農事組合法人 村木沢あじさい営農組合

(山形市村木沢)

2 「効率的な復田技術の確立」

農業総合研究センター土地利用型作物部

(山形市みのりが丘)

農事組合法人 村木沢あじさい営農組合 代表理事 佐藤 清一
～地域住民とともに地域農業の更なる発展をめざす集落営農法人～



若手従業員「農メンズ」



汎用コンバインによる小麦収穫(6月下旬)

○経営の概要

- (1) 経緯 平成18年 県内初の特定農業団体となる集落営農組織を設立
平成25年 245名の出資により農事組合法人を設立
高齢化や他産業従事者で耕作できなくなった農地の受け皿として規模拡大
(経営耕地面積は、平成25年の101haから155ha(R5年現在)に拡大)
- (2) 経営規模 水稻33ha、大豆(里のほほえみ、タチユタカ)45ha、そば(でわかおり)30ha、小麦(ゆきちから)31ha、えだまめ・さといも等16ha
- (3) 構成員等 組合員 284名(うち理事5名)、常雇15名(うち事務4名)、準職員5名(R5年8月現在)
- (4) 施設・機械 トラクター10台、田植機3台、乗用管理機8台、コンバイン6台
- (5) 販売先 農協、生協、食品製造業者、農産物直売所、直接販売

○特徴的な取組

- (1) 水田の畑地化による転作作物の生産
県営畑地化事業の導入(約120ha)、農地の団地化を進め、地下かんがいを利用した大豆・小麦・大豆の2年3作体系に取り組んできた。このほか、えだまめ、さといも、キャベツ等の園芸作物を生産している。
- (2) 6次産業化、地産地消の取組による経営の多角化
生産物の一部をみそ、さといもの洗い芋として加工するほか、市内の食品製造業者に原料を供給し、豆腐、豆菓子、でわかおりそば、ゆきちからラーメン等を委託加工して、組合の直売所や市内の直売所で農産物とともに販売している。
- (3) 地域活性化、食育・キャリア教育の取組
えだまめ収穫体験、そばまつり、収穫感謝祭等、地域住民参加型イベントの開催に加え、生協の米づくり体験交流会(親子食育活動)や中学校の職場体験等への協力も行っている。

○受賞歴

- H14年度 大豆・そば・麦生産性品質向上コンクール集団の部「全国農業協同組合中央会長賞」
- H21年度 東北農政局土地改良事業地区営農推進功労者
- H25年度 山形県ベストアグリ賞表彰事業「東北農政局長賞・山形県ベストアグリ賞」
- H25年度 全国農業協同組合中央会主催「第1回地域営農ビジョン大賞」

水活交付金見直しに対応した小麦栽培

村木沢あじさい営農組合

1 場 所 山形市村木沢地区

2 面 積 水張り実施面積 14ha (R4小麦播種面積 26ha)

3 品 種 ゆきちから

4 水張り実施概要

- ・入水期間 令和5年7月19日 ～ 8月22日
(地区灌漑期間 令和5年5月6日 ～ 9月10日)
- ・現地確認 令和5年7月19日、8月21日
山形市農業振興協議会による目視及び写真撮影
- ・漏水対策 入水直後に畦畔際のトラクターによる鎮圧
圃場巡回、漏水を確認した場合は手作業で畦畔等補修
- ・落水後の対応 明渠排水

5 作付体系

- ・令和4年まで
小麦(冬)－大豆(夏)－小麦(冬)
- ・令和5年以降の計画
水張り(夏)－小麦(冬)－検討中



湛水時の状況 (7/19)

6 課 題 (苦労した点)

- ・事前に土地改良区、周辺作付者、関係機関に連絡して了解を得るのに苦労した。
- ・定期的に見回りを実施し、湛水状態を確認するとともに、隣接の圃場(園芸作物等)への漏水がないか確認し、漏水が見つかった場合は、速やかに畦畔等の補修等を行う必要があり、多大な労力を要した。
- ・大豆圃場等で春の入水も検討したが、隣接圃場(水稻含む)に漏水した場合、春作業に支障をきたすこと、播種適期を確保できないことが想定されたため、実施していない。
- ・水張りの確認方法が確定していないため、今回の水張りが1ヶ月湛水として認められるか不安。

大規模経営体の収益性を高める作業 技術体系の確立

～効率的な復田技術の確立～

【目的】：効率的な復田技術確立に向け、耕起による耕盤復活技術、鎮圧ローラーによる漏水防止技術を検討する。

◎実証内容（大豆作後に実施 播種:5月31日 品種:里のほほえみ）

1 ロータリー耕起等による耕盤復活技術の実証

※長期連用水田で大豆作を実施後、耕盤復活技術を検討

- 検証作業：①高水分状態ロータリー耕起→代かき
- ②低水分状態ロータリー耕起→代かき
- ③チゼルプラウ耕起→縦軸駆動ハロー整地

○調査項目：作業速度、土壤水分（耕起前）、減水深、土壤硬度（終了時）

2 乾田直播における鎮圧ローラーを用いた漏水防止技術の実証

- 耕起整地：チゼルプラウ→縦軸駆動ハロー
- 検証作業：鎮圧（K型ローラーで0～2回）
- 調査項目：土壤水分（鎮圧前）、土壤硬度（鎮圧前、後）、減水深

想定される復田時の作業体系イメージ

①高水分耕起による復田

耕起

・ロータリー(高水分)

代かき

・代かきハロー

②鎮圧による復田

耕起

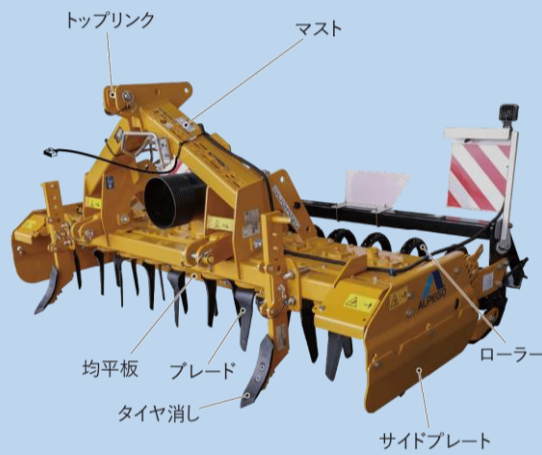
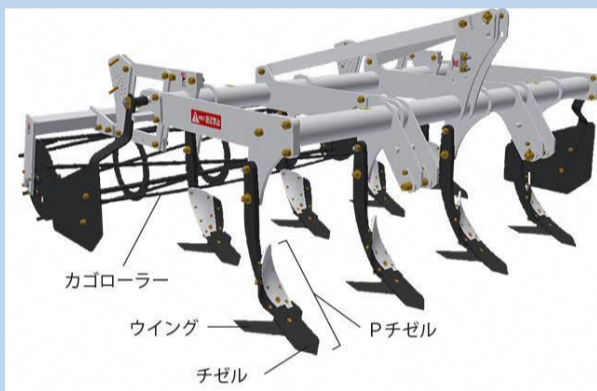
・チゼルプラウ

整地

・縦軸駆動ハロー

鎮圧

・K型ローラー



水張時の作業イメージ

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	課題
水稻		移植				収穫	
大豆		水張	排水対策	播種		収穫	播種期の遅れ ↓ 早生品種で狭畦密植栽培 排水対策
そば		水張	排水対策	播種		収穫	